

ある。

本品はジエチルエーテルに溶けにくく、水又はエタノール (99.5) にほとんど溶けない。

**酸 価** 5 ~ 9 又は 17 ~ 22. 本品約 6 g を精密に量り、250 mL の共栓フラスコに入れ、エタノール (99.5) 50 mL を加え、加温して溶かし、フェノールフタレイン試液 1 mL を加え、以下酸価の試験を行う。ただし、溶媒はあらかじめ中和せずに同様の方法で空試験を行い、補正する。

**けん化価** 80 ~ 100 本品約 3 g を精密に量り、250 mL の共栓フラスコに入れ、正確に 0.5 mol/L 水酸化カリウム・エタノール液 25 mL 及びエタノール (95) 50 mL を加え、還流冷却器を付け、水浴上で 4 時間加熱し、以下けん化価の試験を行う。

**融 点** 60 ~ 67 °C (第 2 法)。

**純度試験** パラフィン、脂肪、もくろう又は樹脂 本品をなるべく低温で融解し、エタノール (95) 中に滴加して球粒を製し、24 時間空気中に放置した後、これを比重 0.95 及び 0.97 に調製したエタノール (95) 及び水の混液にそれぞれ投入するとき、球粒は比重 0.95 の混液では沈むか又は懸留し、比重 0.97 の混液では浮かぶか又は懸留する。

**貯 法 容 器** 密閉容器。

## ミョウバン水

Alum Solution

本品は定量するとき、硫酸アルミニウムカリウム [AlK(SO<sub>4</sub>)<sub>2</sub> · 12H<sub>2</sub>O : 474.39] 0.27 ~ 0.33 w/v% を含む。

**製 法**

硫酸アルミニウムカリウム	3 g
ハ ッ カ 水	50 mL
常水又は精製水	適量
全 量	1000 mL

以上をとり、溶解混和して製する。

**性 状** 本品は無色澄明の液で、ハッカ油のにおいがあり、味は渋い。

**確認試験**

(1) 本品 5 mL に塩化アンモニウム試液 3 mL 及びアンモニア試液 1 mL を加えるとき、白色のゲル状の沈殿を生じ、更にアリザリンレッド S 試液 5 滴を追加するとき、沈殿は赤色に変わる (硫酸アルミニウム)。

(2) 本品 100 mL を蒸発皿にとり、水浴上で蒸発乾固し、残留物を水 5 mL に溶かした液はカリウム塩の定性反応を呈する。

(3) 本品は硫酸塩の定性反応 (1) 及び (2) を呈する。

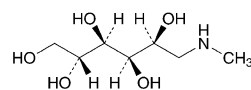
**定 量 法** 本品 50 mL を正確に量り、0.02 mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液 30 mL を正確に加え、pH 4.8 の酢酸・酢酸アンモニウム緩衝液 20 mL を加えた後、5 分間煮沸し、冷後、エタノール (95) 55 mL を加え、0.02 mol/L 酢酸亜鉛液で滴定する (指示薬: ジチゾン試液 2 mL)。ただし、滴定の終点は液の淡暗緑色が淡赤色に変わるときとする。同様の方法で空試験を行う。

0.02 mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素  
二ナトリウム液 1 mL  
= 9.488 mg AlK(SO<sub>4</sub>)<sub>2</sub> · 12H<sub>2</sub>O

**貯 法 容 器** 気密容器。

## メグルミン

Meglumine



C<sub>7</sub>H<sub>17</sub>NO<sub>5</sub> : 195.21

1-Deoxy-1-methylamino-D-glucitol [6284-40-8]

本品を乾燥したものは定量するとき、メグルミン (C<sub>7</sub>H<sub>17</sub>NO<sub>5</sub>) 99.0 % 以上を含む。

**性 状** 本品は白色の結晶性の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。

本品は水に溶けやすく、エタノール (95) に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品 1.0 g を水 10 mL に溶かした液の pH は 11.0 ~ 12.0 である。

**確認試験**

(1) 本品の水溶液 (1 → 10) 1 mL に 1,2-ナフトキノン-4-スルホン酸カリウム試液 1 mL を加えるとき、液は濃赤色を呈する。

(2) 本品の水溶液 (1 → 10) 2 mL にメチルレッド試液 1 滴を加え、0.5 mol/L 硫酸試液で中和した後、希水酸化ナトリウム試液 0.5 mL 及びホウ酸 0.5 g を加えるとき、液は濃赤色を呈する。

(3) 本品 0.5 g を薄めた塩酸 (1 → 3) 1 mL に溶かし、エタノール (99.5) 10 mL を加えるとき、白色の沈殿を生じる。次に容器の内壁をガラス棒でこすりながら氷冷して更に沈殿を析出させ、ガラスろ過器 (G3) を用いて吸引ろ過し、エタノール (99.5) 少量で洗った後、105 °C で 1 時間乾燥するとき、その融点は 149 ~ 152 °C である。

**旋光度** [α]<sub>D</sub><sup>20</sup>: -16.0 ~ -17.0° (乾燥後, 1 g, 水, 10 mL, 100 mm)。

**融 点** 128 ~ 131 °C

**純度試験**

(1) 溶状 本品 1.0 g を水 10 mL に溶かすとき、液は無色澄明である。

(2) 塩化物 本品 1.0 g を水 30 mL に溶かし、希硝酸 10 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液には 0.01 mol/L 塩酸 0.25 mL を加える (0.009 % 以下)。

(3) 硫酸塩 本品 1.0 g を水 30 mL に溶かし、希塩酸 5 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液には 0.005 mol/L 硫酸 0.40 mL を加える (0.019 % 以下)。

(4) 重金属 本品 2.0 g をとり、第 4 法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液 2.0 mL を加える (10

ppm 以下).

(5) ヒ素 本品 2.0 g をとり, 第 3 法により検液を調製し, 装置 B を用いる方法により試験を行う (1 ppm 以下).

(6) 還元性物質 本品の水溶液 (1 → 20) 5 mL にフェーリング試液 5 mL を加え, 2 分間煮沸するとき, 赤褐色の沈殿を生じない.

乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, 105 °C, 4 時間).

強熱残分 0.10 % 以下 (1 g).

定量法 本品を乾燥し, その約 0.4 g を精密に量り, 水 25 mL に溶かし, 0.1 mol/L 塩酸で滴定する (指示薬: メチルレッド試液 2 滴).

$$0.1 \text{ mol/L 塩酸 } 1 \text{ mL} = 19.521 \text{ mg } C_7H_{17}NO_5$$

貯法 容器 気密容器.

## メチルセルロース

Methylcellulose

本品はセルロースのメチルエーテルである. 本品を乾燥したものは定量するとき, メトキシ基 (-OCH<sub>3</sub>: 31.03) 26.0 ~ 33.0 % を含む.

本品はその動粘度を平方ミリメートル毎秒 (mm<sup>2</sup>/s) の単位で表示する.

性状 本品は白色~帯黄白色の粉末又は粒で, においはないか, 又はわずかに特異なにおいがあり, 味はない.

本品はエタノール (99.5), アセトン又はジエチルエーテルにほとんど溶けない.

本品に水を加えるとき, 膨潤し, 澄明又はわずかに混濁した粘稠性のある液となる.

### 確認試験

(1) 本品 1 g に熱湯 100 mL を加え, かき混ぜながら室温まで冷却し, 試料溶液とする. 試料溶液 5 mL にアントロン試液を穏やかに加えるとき, 境界面は青色~青緑色を呈する.

(2) (1) で得た試料溶液 0.1 mL に薄めた硫酸 (9 → 10) 9 mL を加えて振り混ぜ, 水浴中で正確に 3 分間加熱した後, 直ちに氷水浴中で冷却し, ニンヒドリン試液 0.6 mL を注意して加えて振り混ぜ, 25 °C で放置するとき, 液は紅色を呈し, 更に 100 分間放置後も紫色に変化しない.

(3) 本品 5 mg を小試験管にとり, 25 % 含水過酸化ベンゾイルのアセトン溶液 (1 → 10) 2 滴を加え, 水浴上で蒸発乾固し, 下端にクロモトロープ酸試液を付けたガラス棒をその小試験管にコルク栓で固定し, 125 °C の浴中で 5 ~ 6 分間加熱するとき, クロモトロープ酸試液は赤紫色を呈する.

(4) (1) で得た試料溶液を水浴中で加熱するとき, 白濁又は白色の沈殿を生じ, 冷却するとき, 白濁又は沈殿は消失する.

粘度 本品の換算した乾燥物 2.000 g に対応する量を正確に量り, 85 °C の水 98 mL を加え, かき混ぜ機を用いて 10 分間かき混ぜる. 更に 40 分間かき混ぜながら氷水中で試料を溶かした後, 水を加えて 100.0 g とし, 必要ならば遠心分離して泡を除き, 20 °C で粘度測定法第 1 法により試験を行うとき, 表示単位の 80 ~ 120 % である.

pH 本品 1.0 g に熱湯 100 mL を加え, 振り混ぜて懸濁し, 冷却した液の pH は 5.0 ~ 8.0 である.

### 純度試験

(1) 溶状 本品 0.5 g に熱湯 20 mL を加え, 水浴上で加熱しながらよくかき混ぜて分散させる. 5 °C に冷却した後, 水を加えて 50 mL とし, ネスラー管に入れ, 液の濁度を側方から観察するとき, 次の比較液より濃くない.

比較液: 0.005 mol/L 硫酸 2.0 mL に希塩酸 1 mL, 水 45 mL 及び塩化バリウム試液 2 mL を加えて混和し, 10 分間放置した後, 振り混ぜて用いる.

(2) 塩化物 本品 1.0 g に熱湯 30 mL を加えてよくかき混ぜ, 水浴上で 10 分間加熱した後, 熱時傾斜してろ過し, 残留物を熱湯でよく洗い, 洗液をろ液に合わせ, 冷後, 水を加えて 100 mL とする. この液 5 mL に希硝酸 6 mL 及び水を加えて 50 mL とする. これを検液とし, 試験を行う. 比較液には 0.01 mol/L 塩酸 0.40 mL を加える (0.284 % 以下).

(3) 重金属 本品 2.0 g をとり, 第 2 法により操作し, 試験を行う. 比較液には鉛標準液 2.0 mL を加える (10 ppm 以下).

(4) 鉄 本品 0.20 g をとり, 第 3 法により検液を調製し, A 法により試験を行う. 比較液には鉄標準液 2.0 mL を加える (100 ppm 以下).

(5) ヒ素 本品 1.0 g をとり, 第 3 法により検液を調製し, 装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下).

乾燥減量 5.0 % 以下 (1 g, 105 °C, 1 時間).

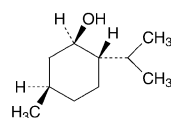
強熱残分 1.0 % 以下 (1 g).

定量法 本品を乾燥し, その約 0.025 g を精密に量り, メトキシ基定量法により試験を行う.

貯法 容器 密閉容器.

## dl-メントール

dl-Menthol



及び鏡像異性体

C<sub>10</sub>H<sub>20</sub>O : 156.27

(1*RS*,2*SR*,5*RS*)-2-Isopropyl-5-methylcyclohexanol  
[I5356-70-4]

本品は定量するとき, dl-メントール (C<sub>10</sub>H<sub>20</sub>O) 98.0 % 以上を含む.

性状 本品は無色の結晶で, 特異でそう快な芳香があり, 味は初め舌をやくようで, 後に清涼となる.

本品はエタノール (95) 又はジエチルエーテルに極めて溶けやすく, 水に極めて溶けにくい.

本品は室温で徐々に昇華する.

### 確認試験

(1) 本品を等量のカンフル, 抱水クロラル又はチモール